

オーデマピゲ ロイヤル オーク
クロノス日本版

ファーストモデルと
現行モデルを徹底比較

Chronos

1月号
JAN

第32号
2011 no.03

定価1500yen

www.webchronos.net

【スイス取材特集】

好事家たちの目を奪った
ふたりのウォッチクリエイター
ローラン・フェリエ
×ローマン・ゴティエ

【新鋭 WATCH THE NEW】

MB&F×モーブッサン
ハイジュエリーで優美に武装した
オロジカル・マシン最新形
ブライトリング
主要パイロットクロノグラフ
「キャリアー01」配備完了
パネライのルーツを
体現する2本の
オーバーサイズ・ミリタリー
本気モードの内外装
オメガ渾身の
新生レディマティック

構想5年「連載コミック」スタート

ムリやり時計ゼミ

【TEST ドイツ版翻訳記事】

ノモス
「チュールッヒ・ワールドタイム」
カール F.ブヘラ
「パトラビ
エボテック デイデイト」

良質な時計選びのABC

【精度編】

進み/遅れの調整法から
精度を知る
チラネジが本物か装飾か見る
ヒゲゼンマイの形状

【精度テスト】

パテック フィリップ「カラトラバ Ref.5565」
パネライ「ルミノール 1950」
サブマーシブル 47mm

【装飾編】

スイス高級時計に比肩するクレドールの仕上げ
エッジの面取りと側面の仕上げに
凝縮される技
ブリッジの形状が地域性を示す
穴石の見どころは色と形

【応用編】

コンプリケーション
雄弁な取扱説明書の読み方



ムーブメント鑑定 の極意

ルイ・モネが示す 4つの ハイクオリティ

19世紀のフランスで活躍した伝説的な時計師、ルイ・モネ。その名を受け継ぐブランドが創設されたのは2004年のことである。以来、装飾技法の独自性と、その高品質が評価されてきた同社だが、近年ではもっとメカニカルな部分に及んで、独創性を発揮するに至っている。新生ルイ・モネが示したハイクオリティの源泉を探る。

吉江正倫:写真

Photographs by Masanori Yoshie

鈴木裕之(本誌):文

Text by Hiroyuki Suzuki (Chronos-Japan)



テンポグラフ

12時位置にオフセットされた時分表示と、10秒レトログラフを備える。複雑に分割されたケース構造を活かした、18KPGと18KYGのコンビネーションモデル。自動巻き(ソブロード Cal.A10 ベース)。2万8800振動/時。27石。パワーリザーブ約42時間。直径47mm。世界限定60本。819万円。

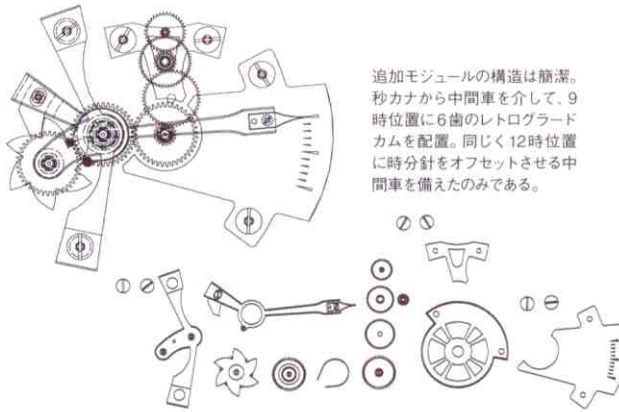
ETA2892-A2と基本構造を同じくするソブロードA10がベース。スベーターからローターに繋がる、コート・ド・ジュラの切削加工が目目を惹く。特許申請中を意味する刻印あり。



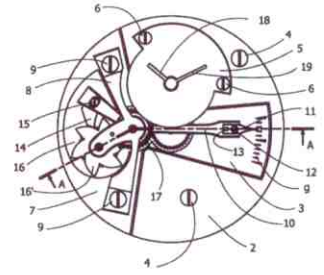
TEMPOGRAPH

ルイ・モネの技術書に インスピレーションを得た 独自のレトロград表示

19世紀の時計師であり、芸術家でもあったルイ・モネが著した『時計技術概論』。装飾の一部として採り入れられてきた、こうした図面からのインスピレーションを、初めて機構的に落とし込んだという点で、テンポグラフは新生ルイ・モネのマイルストーンと呼べる。6歯を持つレトロградカムを9時位置に配したことで、視覚的な面白さと、10秒レトロградという独自性の強い機構を実現している。



追加モジュールの構造は簡潔。秒カナから中間車を介して、9時位置に6歯のレトロградカムを配置。同じく12時位置に時分針をオフセットさせる中間車を備えたのみである。



日の裏側に置かれるモジュールの構造図。秒針は軽量化のためチタン素材(先端はシリコン)。簡素に見えるブリッジ形状は、ルイ・モネが残した19世紀の図面に範を得ている。

ルイ・モネの名が記録として残るのは、アブラアンルイ・ブレゲが残した書簡の中であり、1811年にモネと出会ったブレゲは、自身が死去するまでの約12年

たりまでの事情は判然としない。ルイ・モネの名が記録として残るのは、アブラアンルイ・ブレゲが残した書簡の中であり、1811年にモネと出会ったブレゲは、自身が死去するまでの約12年

間、時計製作の道具を入手するため、スイスでの長期滞在を繰り返すようになってゆく。モネはパリ時計技術協会の会長になると同時に、いくつかの学術・芸術団体にも名を連ねたとあるが、このあたりまでの事情は判然としない。

20歳になった頃から芸術を志し、ローマ、フィレンツェと渡って、建築、彫刻、絵画を学んだとある。フランスに戻った後は、芸術アカデミーの教授としてルーブル宮に住まいを与えられたが、その後モネの関心は、時計技術の習得と実践へと移り、時計製作の道具を入手するため、

2004年に、レ・アトリエール・ルイ・モネ社が新生された当初、まずシャラー氏の関心は、ルイ・モネという名から想起される。芸術性へ向けられたようだ。「コート・ド・ジュラ」と名付けられた独自の強い装飾表現が、時計愛好家の関心を集めたが、この時点では機構面のオリジナリティは、強く発揮されてはいなかった。転機となったのは08年に発表された「テンポグラフ」である。モネが残した図面から、形状的な着想を得たという6歯のカムを追加したことで、テンポグラフは10秒ごとのレトロградセコンドを実現。独立時計師、セバスチャン・ルーセン氏の手になるこの機構は、モネの書簡に基づき、古典に範を得たR&Dを掲げた実質的な第1作であり、新生ルイ・モネブランドの理念を体現するアイコンとなったのである。

19世紀に活躍したルイ・モネの名が、時計史に再び登場したのは2004年のこと。自らブランド創設の陣頭に立ったベルレを辞し、ラコステ、ウオッチのマネージングディレクターを務めていたジャン・マリイ・シヤラー氏は、かつて耳にしたルイ・モネという時計師の名のもとに、新しいレーベルの構想を温めていた。偉人の名を掲げ、そのエッセンスを抽出して、現代的にアレンジしてゆくブランド構築のロジック自体は、ベルレの場合と同様である。ではシヤラー氏は、ルイ・モネという名が喚起させる幾多のイメージから、何を汲みあげようとしたのか？

アブラアンルイ・ブレゲとほぼ同時代を生きた時計師ルイ・モネ(1768-1853年)は、多方面に才能を発揮した人物であつたらしい。没年となった53年にパリで出版された『世界人物名鑑』に、当時のパリ時計技術協会副会長だったM・デルマスが残した記述によると、フランス、プールジュに生まれたモネは、

間にわたって、モネをパリの自宅に住まわせている。この時期は、フランスの王政復古時代とも重なり、現在もルーブル美術館やベルサイユ宮殿、フィレンツェのピッティ宮殿などに収蔵されているモネの作品は、ほとんどこの頃に生まれている。ブロンズ鋳造師のピエール・フィリップ・トミールらと組んで制作されたこれらの作品に、モネの芸術的才能の片鱗を見ることができよう。一方、ブレゲが惚れ込んだとされるモネの理論的、技術的な才能は、1848年に出版された大著『時計技術概論』の中に見出すことができる。またブレゲの死後、フェルディナンド・ベルトウーの標準時計を完璧に再現し、自ら考案した60分の1秒計なども完成させている。1851年のロンドン万国博覧会において、クリスタル・パレスに展示された天文時計もモネの作品である。

間にわたって、モネをパリの自宅に住まわせている。この時期は、フランスの王政復古時代とも重なり、現在もルーブル美術館やベルサイユ宮殿、フィレンツェのピッティ宮殿などに収蔵されているモネの作品は、ほとんどこの頃に生まれている。ブロンズ鋳造師のピエール・フィリップ・トミールらと組んで制作されたこれらの作品に、モネの芸術的才能の片鱗を見ることができよう。一方、ブレゲが惚れ込んだとされるモネの理論的、技術的な才能は、1848年に出版された大著『時計技術概論』の中に見出すことができる。またブレゲの死後、フェルディナンド・ベルトウーの標準時計を完璧に再現し、自ら考案した60分の1秒計なども完成させている。1851年のロンドン万国博覧会において、クリスタル・パレスに展示された天文時計もモネの作品である。

間にわたって、モネをパリの自宅に住まわせている。この時期は、フランスの王政復古時代とも重なり、現在もルーブル美術館やベルサイユ宮殿、フィレンツェのピッティ宮殿などに収蔵されているモネの作品は、ほとんどこの頃に生まれている。ブロンズ鋳造師のピエール・フィリップ・トミールらと組んで制作されたこれらの作品に、モネの芸術的才能の片鱗を見ることができよう。一方、ブレゲが惚れ込んだとされるモネの理論的、技術的な才能は、1848年に出版された大著『時計技術概論』の中に見出すことができる。またブレゲの死後、フェルディナンド・ベルトウーの標準時計を完璧に再現し、自ら考案した60分の1秒計なども完成させている。1851年のロンドン万国博覧会において、クリスタル・パレスに展示された天文時計もモネの作品である。

間にわたって、モネをパリの自宅に住まわせている。この時期は、フランスの王政復古時代とも重なり、現在もルーブル美術館やベルサイユ宮殿、フィレンツェのピッティ宮殿などに収蔵されているモネの作品は、ほとんどこの頃に生まれている。ブロンズ鋳造師のピエール・フィリップ・トミールらと組んで制作されたこれらの作品に、モネの芸術的才能の片鱗を見ることができよう。一方、ブレゲが惚れ込んだとされるモネの理論的、技術的な才能は、1848年に出版された大著『時計技術概論』の中に見出すことができる。またブレゲの死後、フェルディナンド・ベルトウーの標準時計を完璧に再現し、自ら考案した60分の1秒計なども完成させている。1851年のロンドン万国博覧会において、クリスタル・パレスに展示された天文時計もモネの作品である。

間にわたって、モネをパリの自宅に住まわせている。この時期は、フランスの王政復古時代とも重なり、現在もルーブル美術館やベルサイユ宮殿、フィレンツェのピッティ宮殿などに収蔵されているモネの作品は、ほとんどこの頃に生まれている。ブロンズ鋳造師のピエール・フィリップ・トミールらと組んで制作されたこれらの作品に、モネの芸術的才能の片鱗を見ることができよう。一方、ブレゲが惚れ込んだとされるモネの理論的、技術的な才能は、1848年に出版された大著『時計技術概論』の中に見出すことができる。またブレゲの死後、フェルディナンド・ベルトウーの標準時計を完璧に再現し、自ら考案した60分の1秒計なども完成させている。1851年のロンドン万国博覧会において、クリスタル・パレスに展示された天文時計もモネの作品である。

間にわたって、モネをパリの自宅に住まわせている。この時期は、フランスの王政復古時代とも重なり、現在もルーブル美術館やベルサイユ宮殿、フィレンツェのピッティ宮殿などに収蔵されているモネの作品は、ほとんどこの頃に生まれている。ブロンズ鋳造師のピエール・フィリップ・トミールらと組んで制作されたこれらの作品に、モネの芸術的才能の片鱗を見ることができよう。一方、ブレゲが惚れ込んだとされるモネの理論的、技術的な才能は、1848年に出版された大著『時計技術概論』の中に見出すことができる。またブレゲの死後、フェルディナンド・ベルトウーの標準時計を完璧に再現し、自ら考案した60分の1秒計なども完成させている。1851年のロンドン万国博覧会において、クリスタル・パレスに展示された天文時計もモネの作品である。

間にわたって、モネをパリの自宅に住まわせている。この時期は、フランスの王政復古時代とも重なり、現在もルーブル美術館やベルサイユ宮殿、フィレンツェのピッティ宮殿などに収蔵されているモネの作品は、ほとんどこの頃に生まれている。ブロンズ鋳造師のピエール・フィリップ・トミールらと組んで制作されたこれらの作品に、モネの芸術的才能の片鱗を見ることができよう。一方、ブレゲが惚れ込んだとされるモネの理論的、技術的な才能は、1848年に出版された大著『時計技術概論』の中に見出すことができる。またブレゲの死後、フェルディナンド・ベルトウーの標準時計を完璧に再現し、自ら考案した60分の1秒計なども完成させている。1851年のロンドン万国博覧会において、クリスタル・パレスに展示された天文時計もモネの作品である。

間にわたって、モネをパリの自宅に住まわせている。この時期は、フランスの王政復古時代とも重なり、現在もルーブル美術館やベルサイユ宮殿、フィレンツェのピッティ宮殿などに収蔵されているモネの作品は、ほとんどこの頃に生まれている。ブロンズ鋳造師のピエール・フィリップ・トミールらと組んで制作されたこれらの作品に、モネの芸術的才能の片鱗を見ることができよう。一方、ブレゲが惚れ込んだとされるモネの理論的、技術的な才能は、1848年に出版された大著『時計技術概論』の中に見出すことができる。またブレゲの死後、フェルディナンド・ベルトウーの標準時計を完璧に再現し、自ら考案した60分の1秒計なども完成させている。1851年のロンドン万国博覧会において、クリスタル・パレスに展示された天文時計もモネの作品である。

間にわたって、モネをパリの自宅に住まわせている。この時期は、フランスの王政復古時代とも重なり、現在もルーブル美術館やベルサイユ宮殿、フィレンツェのピッティ宮殿などに収蔵されているモネの作品は、ほとんどこの頃に生まれている。ブロンズ鋳造師のピエール・フィリップ・トミールらと組んで制作されたこれらの作品に、モネの芸術的才能の片鱗を見ることができよう。一方、ブレゲが惚れ込んだとされるモネの理論的、技術的な才能は、1848年に出版された大著『時計技術概論』の中に見出すことができる。またブレゲの死後、フェルディナンド・ベルトウーの標準時計を完璧に再現し、自ら考案した60分の1秒計なども完成させている。1851年のロンドン万国博覧会において、クリスタル・パレスに展示された天文時計もモネの作品である。



テンポグラフ

新作の42mmケース。ベゼル配置が天地逆となり、12時位置の装飾プレートをオミット。自動巻き(ソブロード Cal.A10 ベース)。2万8800振動/時。27石。パワーリザーブ約42時間。SS×Ti。世界限定60本。388万5000円。



テンポグラフ

18KRGとTiのコンビモデル。複雑なケースは、全48パーツから構成される。自動巻き(ソブロード Cal.A10 ベース)。2万8800振動/時。27石。パワーリザーブ約42時間。直径47mm。世界限定60本。504万円。



テンポグラフ

SSとTiのコンビモデル。日本市場には黒文字盤のみが導入される予定。自動巻き(ソブロード Cal.A10 ベース)。2万8800振動/時。27石。パワーリザーブ約42時間。直径47mm。世界限定60本。399万円。

JULES VERNE

ジュール・ヴェルヌ インストゥルメント2

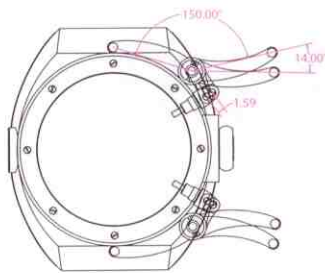
自動巻きのスプリットセコンドエポッシュュに、ポインターデイトを加えたモデル。簡潔な時分針のデザインは、ルイ・モネが残した図面に基づく。自動巻き(ETA Cal.7770 ベース)。2万8800振動/時。25石。パワーリザーブ約44時間。SS×18KRG(縦54×横46.3mm)。262万5000円。世界限定12本。

3時位置のケース側面に小窓を設け、内部にスライスした月の石を収める。この素材の使用はユニークピースのマジストラウスに続くもの。小窓はノーチラス号の舷窓を模したと思われる。



ジュール・ヴェルヌの描く 世界観から導き出された 最新のレバーアクション

ジュール・ヴェルヌ直系の子孫と、アーカイブの管理団体に協力を仰いでデザインされたルイ・モネの最新ケース。従来までのエレガントな印象から一転して、機械然とした武骨さを前面に打ち立てた。レバーアクションによって操作するクロノグラフは、誤動作を防止するとともに、「ジュール・ヴェルヌの計器」としての印象を強めている。2010年モデルではローターデザインに変更が加えられた。



上方のレバーを展開して押し下げることで、クロノグラフのスタート/ストップを行う(リセット時は下のレバーを押し上げる)。折りたたんだ状態では、プッシャーがロックされる。



ジュール・ヴェルヌ インストゥルメント1

9時位置にセカンドタイムゾーンを表示するクロノグラフ。3時位置にはポインターデイト表示。2010年モデルでは、ゴールド製のローターに、月のクレーターを模した装飾が加えられる。ケースの厚さが14.5mmもあるが、バランスは良好。自動巻き(ETA Cal.7750 ベース)。2万8800振動/時。25石。パワーリザーブ約44時間。SS×18KRG(縦54×横46.3mm)。252万円。世界限定12本。

現手法とも合致するようだ。

新生ルイ・モネは、ヴェルヌ直系の子孫であるジャン・ミッシェル・ヴェルヌ氏と、エスパスジュール・ヴェルヌ博物館を管理・運営するメゾン・タイユール博物館の協力を得て、新たなケースの創作に取り組んだ。ジュール・ヴェルヌの計器と名付けられたクロノグラフには、この原理を応用したレバー式プッシュヤーを採用。折りたたむことで誤動作を防止すると同時に、大がかりなレバーアクションは、近年ジュール・ヴェルヌの機械として定着しているスチームパンク的な表現手法とも合致するようだ。

後の映像作家たちの表現を自由にしたことも事実だろう。リベットだらけのスチームパンク的な船体イメージなどは、後年に創作されたものだ。

SF小説の古典としての評価が一般的だが、ヴェルヌ自身は科学考証的な記述をほとんどしておらず、例えばノーチラス号の動力にしても「一般とは異なる電力をこの原理で発生」などと記されているに過ぎない。しかし、こうした曖昧さが後の映像作家たちの表現を自由にしたことも事実だろう。リベットだらけのスチームパンク的な船体イメージなどは、後年に創作されたものだ。

2008年に発表された「テンポグラフ」では、古典から得た着想を、実質的なR&Dとして解釈してみせた新生ルイ・モネ。以降同社は、機構面においてもオリジナリティを強く打ち出す傾向を見せている。テンポグラフに続き、09年に発表された「ジュール・ヴェルヌ」では、新しいケイスメイキングの試みが盛り込まれた。

ジュール・ヴェルヌの著作が、ピエール・ジュール・エツツェルの出版社から初刊行されたのは1863年。ルイ・モネが世を去ってから10年後の出来事である。この「気球に乗って五週間」で評判を得たヴェルヌは、冒険小説家として『月世界旅行』や『海底二万哩』などを著した。

